

令和 5 年度宮城県災害医療コーディネート研修会を開催しました (2023/7/29)

テーマ：災害時の保健医療福祉コーディネート（調整）、本部運営
場 所：東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市）

2023 年 7 月 29 日（土）、宮城県仙台市の東北大学災害科学国際研究所で、令和 5 年度宮城県災害医療コーディネート研修会を開催しました。本研修会は宮城県から事業委託を受けた NPO 法人災害医療 ACT 研究所（石巻市）が実施、また当研究所が実施主体の一つである「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」の「災害保健医療コーディネート実習」も兼ねています。プログラム履修生 8 名（看護師、保健師、検査技師ほか）を含む、宮城県内の医療機関・行政機関関係者など計 35 名が研修に臨みました。研修コーディネーターを務める佐々木宏之准教授（災害医療国際協力学分野）が会場責任者として運営にあたりました。

被災地で活動する災害保健医療チームは全国各地から集まり、派遣元組織もさまざまです。このように異なる背景を持つ多数のチームを有機的に運用するためには、言語の統一や情報収集・共有、意思統一などの本部コーディネート（調整）機能が重要な鍵となります。この研修では、東日本大震災時に石巻医療圏の医療調整本部を支援し続けた ACT 研究所の医療従事者が講師となり、当時の実例を題材に本部でのチームビルディング、情報収集・共有のあり方、本部組織運営について実践的な研修を行いました。一日の総まとめとして、研修の最後に 2 時間半にわたる模擬本部運営研修を行い、受講者は本番さながらのシナリオに基づく混乱状態の本部運営を体験しました。初めて参加した受講者は、「ここまで緊迫した訓練を経験したことはなかった。実災害時の本部活動で活用したい」と感想を述べていました。

今回はコロナ禍明けの初研修となり、感染対策に留意しつつ受講者数をコロナ禍前に戻して実施しました。より多くの方が実践に即した知識・技術を身につけることで、宮城県の災害保健医療福祉体制はすそ野が広がり、より強靱かつ厚みを増すこととなります。



宮城県の保健医療体制を解説する宮城県医療政策課菊池氏



本部に集まる様々な確度の情報から被災状況を推定する



避難所調査の優先順について検討結果を発表する受講者



地図を見ながら人的資源配分を検討する受講生チーム



情報が集中・錯綜し混乱する本部。リーダーが整理する



研修会全景